

令和3年度

熊本駅前看護リハビリテーション学院
学校関係者評価報告書

令和3年度 学校関係者評価報告書

1 はじめに

学校法人青照学舎が運営する熊本駅前看護リハビリテーション学院の学校関係者評価委員会は、学校評価に関する関連法令に基づき、令和3年度の自己評価報告を基本とした学校関係者評価を実施いたしましたので、ここにご報告します。

学校関係者評価は、学校自らが選任した教育関係者、業界関係者、卒業生、保護者等の学校関係者が、学校自らが実施した「自己評価」の結果について評価することを基本として行う評価で、ホームページ等に公表いたします。

本校といたしましては、学校関係者評価の結果を踏まえ、今後も学校関係者と連携・協力し、学校運営の改善・強化、教育の質の向上、教職員の資質・能力の向上を図って参ります。

2 学校関係者評価について

(1) 目的

学校関係者評価は、自己評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高め、また、生徒・卒業生、関係業界、職能団体、高等学校、保護者・地域住民など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善等を図ること等を目的とします。

(2) 評価のポイント

- ① 自己評価結果の内容が適切か。
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策は適切か。
- ③ 学校の重点目標や自己評価項目等が適切か。
- ④ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か。

(3) 評価期間

2021年4月1日～2022年3月31日

(4) 評価結果の公表

- ① 評価結果や今後の改善方策等を取りまとめ公表します。
- ② 評価結果は、次年度の学校運営や教育活動等について具体的に改善を図ります。

3 学校関係者評価委員会について

(1) 活動内容

- ① 自己評価結果の評価
- ② 学校関係者評価委員会の開催
- ③ 改善意見、助言
- ④ 施設等の確認

(2) 学校関係者評価委員会の委員、事務局

① 学校関係者評価委員 10 名

委員氏名	所属名	役職名
山口 里美	公益社団法人 熊本県理学療法士協会	理事
牛島 由紀雄	一般社団法人 熊本県作業療法士会	副会長
松下 秀雄	一般社団法人 熊本県言語聴覚士会	理事
波多埜 克宜	医療法人 相生会 にしくまもと病院 セラピスト課	課長
田尻 威雅	医療法人 富尾会 桜が丘病院 作業療法室	室長
飯村 知己	医療法人 朝日野会 十善病院	言語聴覚士
寶木 富美子	独立行政法人 国立病院機構 熊本再春医療センター	看護部長
吉田 充	熊本県立熊本農業高等学校	副校長
山中 康司	熊本駅前看護リハビリテーション学院後援会	会長
有田 和弘	熊本駅前看護リハビリテーション学院同窓会	会長

② 学校関係者評価事務局（教職員） 9 名

氏 名	所属名	役職名
藤岡 正導	熊本駅前看護リハビリテーション学院	学校長
高野 茂	熊本駅前看護リハビリテーション学院	学校長代理
黒川 一也	熊本駅前看護リハビリテーション学院	副学校長
西本 守	熊本駅前看護リハビリテーション学院	教頭
白石 正行	熊本駅前看護リハビリテーション学院	事務長
岡田 玉子	熊本駅前看護リハビリテーション学院	看護学科教務部長
有働 正二郎	熊本駅前看護リハビリテーション学院	教務部長代理
緒方 茂	熊本駅前看護リハビリテーション学院	理学療法学科長
山本 麻代	熊本駅前看護リハビリテーション学院	言語聴覚療法学科長

(3) 評価項目

- 基準 1 教育理念・目的・育成人材像
- 基準 2 学校運営
- 基準 3 教育活動
- 基準 4 学修成果
- 基準 5 生徒支援
- 基準 6 教育環境
- 基準 7 生徒の募集と受入れ
- 基準 8 財務
- 基準 9 法令等の遵守
- 基準 10 社会貢献・地域貢献

(4) 学校関係者評価委員会の開催状況

- ① 回答期間 : 令和4年6月15日(水)～6月22日(水)
- ② 開催方法 : 新型コロナウイルス感染防止のため学校関係者評価委員会の学校での一堂に会した開催を中止し、当該委員会については年1回の委員会開催が職業実践専門課程の認定要件として求められていることから、委員の皆様方のご意見を書面にて賜る形での開催に変更しました。
- ③ 回答者 : 学校関係者評価委員 9名/10名
学校関係者評価事務局 9名/9名
- ④ 議題・内容 : 職業実践専門課程に関する説明
学校概要(各学科別)
令和3年度自己評価結果についての説明

4 自己評価結果に対する学校関係者評価、委員の意見

(1) 自己評価結果に対する学校関係者評価委員の評価、意見等を実施状況に照らし、以下の5段階で記載した。

- ・適切(実施)
- ・ほぼ適切(概ね実施)
- ・普通(問題や課題はあるが一通り実施)
- ・やや不適切(少し実施)
- ・不適切(実施していない)

(2) 委員の意見

学校関係者評価委員会での意見を各項目毎(基準毎)にまとめた。

5 評価項目毎の状況

評価項目の基準1～基準10までの状況は次のとおりです。

基準1 教育理念・目標・育成人材像	評価	ほぼ適切
-------------------	----	------

【小項目】

- 1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められ、生徒・保護者に周知されているか：ほぼ適切
- 1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか：ほぼ適切
- 1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか：普通
- 1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか：普通

【委員の意見】

・現在はZoomなどにより遠方の先生方も講義・研修が可能となっているので、澄明な先生を講師として招くことで、時代に即した実践教育を行えるのではないかと考える。

→非常勤講師へ授業を依頼する場合、学校まで来ていただく距離が問題で依頼できないことも多くあった。Zoom等を用いたオンライン授業に関しては、臨床でご活躍され、お忙しい先生方への講義依頼も選択肢に入れることができるので検討していきたい。

・メディカル・カレッジ青照館との合同職員会議等の年間実績及びその中の議論と活かされた事項などを教えていただきたい。

→同職員会議の実施回数は、その年度の12月と3月の2回実施している。12月の会議では各学科部署より経過報告を行い、3月には年度末のまとめ報告を行っており、昨年度に生徒の退学者が議題に上がったため、現在は早期の個別面談の徹底や面談技法に関する職員研修を定期的に行っている。

・教育理念に対し、生徒が「どのように捉え、どの程度理解しているか」など学校で把握しているか。

→教育理念については、毎年4月の説明会で説明しているが、生徒自身がどのように捉え、どのように理解しているのか検証ができていない状況である。

基準2 学校運営	評価	普通
----------	----	----

【小項目】

- 2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか：普通
- 2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか：普通
- 2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか：ほぼ適切
- 2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか：普通
- 2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか：普通

2-6-1 意思決定機能は、効果的に確立されているか：普通

2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか：普通

【委員の意見】

・感染症の蔓延等により、計画通りに実施できない事業も多くあるかと思うが、生徒や職員の意見を尊重ししっかり検討を重ねたうえで代替案を策定していただきたい。

→昨年度の実習に関しては概ね病院等での実習ができており、新型コロナウイルス感染症の影響で難しい場合は実習施設と協議のもと、学内実習の実施か実習期間の変更を行った。自治会が主体で実施しているクラスマッチや学園祭等は昨年度も実施できなかったため、後援会とも協議を重ね昨年度は全学生にボールペンやノートなどの学用品を配っている。

今後も生徒と協議を重ねてコロナ感染症に対応した学校行事を行っていかうと考えている。

・教職員が働きやすい環境づくりにより、より良い学校運営ひいては教育水準の向上にも繋がるものとする。より一層の取組みを期待する。

→教職員が安心して教育活動に専念できる環境を今後も整備していく。

・人事考課制度においての数値化した基準はあるのか。数値化した基準があることで、個人の目標設定と学院の目標がつながりやすくなると思う。

→現在、数値化した人事考課の基準は策定されていないが、学校全体の意識の向上に資することのできる基準を検討していきたいと考えている。

・情報システムに関しては専門業者への委託を行っているのか、十分なリスクヘッジがなされると良いと思う。

→情報システムに関しては専門業者への委託を行っている。

・人事考課について、職員の人材育成やモチベーションの向上に気をつけられていることはあるか。

→教職員のモチベーションの向上につながる人事考課制度の策定を行っていききたいと考えている。

基準3 教育活動	評価	ほぼ適切
----------	----	------

【小項目】

3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成・実施方針を定めているか：ほぼ適切

3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか：ほぼ適切

- 3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか：ほぼ適切
- 3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか：ほぼ適切
- 3-9-3 キャリア教育を実施しているか：普通
- 3-9-4 授業評価を実施しているか：ほぼ適切
- 3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか：ほぼ適切
- 3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか：ほぼ適切
- 3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか：ほぼ適切
- 3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか：普通
- 3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか：普通
- 3-12-3 教員の組織体制を整備しているか：普通

【委員の意見】

・医療従事者としては、その専門性に係る知識・技術が必要であるが、患者様に 1 対 1 で携わった、チーム医療の一員として仕事をしていく中では豊かな人間性が重要となる。相手の立場になって考え行動できる力、他人を思いやる心、周囲と強調できる社会性など、各個人の個性を尊重しつつ、他から信頼される人材育成を期待する。

→本校では専門性にかかる知識・技術だけでなく講義の中ではグループ学習を取り入れ、集団での自分の立ち位置や関係性の構築などを学ぶ機会を設けている。そのよう中で将来患者様やスタッフから信頼されるメディカルスタッフを育てることを心がけている。

・授業評価の実施により、見えてきた課題があれば教えていただきたい。また、国家試験の取得以外のより実務につながることにチャレンジすることは大事であるが、取得した先にその資格をどのように展開していくのか紹介することで、生徒のモチベーションの向上につながると思う。

→授業評価では各科目の評価を講義の担当者が確認でき、今後の講義の方向性に活用している。資格を取得した後の展開を示すようなキャリア教育等は体系的にはできていないので今後の課題として捉えている。

基準 4 学修成果	評価	ほぼ適切
-----------	----	------

【小項目】

- 4-13-1 就職率の向上が図られているか：ほぼ適切
- 4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか：ほぼ適切

【委員の意見】

・国家試験合格率が前項平均を下回っている現状は継続課題の一つだと思う。生徒数も多くはないので、個々の特性を把握した上で手厚い個別指導が行えないだろう

か。

→国家試験の合格率を上げることは本校にとって大きな課題の一つである。例年、国家試験の取り組みを前年の反省を生かして各学科工夫を凝らして実施しているが、結果が伴っていない状況である。今後も試行錯誤を行いながら生徒たちの支援を行っていききたい。

・国家試験の合格率が全国平均を上回っているのが作業療法学科だけであるが、例年の傾向なのか教えていただきたい。

→ここ近年では作業療法学科以外は国家試験合格率が全国平均を下回っている状況である。今後は原因を探りながら、具体的な対策を立て各学科とも合格率 100%を目指して取り組んでいきたい。

基準5 生徒支援	評価	ほぼ適切
----------	----	------

【小項目】

5-15-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか：ほぼ適切

5-16-1 退学率の低減が図られているか：ほぼ適切

5-17-1 生徒相談に関する体制を整備しているか：ほぼ適切

5-18-1 生徒の経済的側面に対する支援体制を整備しているか：ほぼ適切

5-18-2 生徒の健康管理を行う体制を整備しているか：ほぼ適切

5-18-3 課外活動に対する支援体制を整備しているか：普通

5-19-1 保護者との連携体制を構築しているか：ほぼ適切

5-20-1 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか：普通

【委員の意見】

・新型コロナウイルス感染症の影響で学院行事や親睦会などが行えていないと思う。以前と比較すると生徒間、教員と生徒間の関係性も希薄になってしまっているのではないかと。悩みがあっても相談できずにいる生徒の存在に細やかな配慮をお願いしたい。

→新型コロナウイルス感染症で学事や親睦会が例年通り行えていない状況だが、昨年度からは感染予防を考慮して可能なものは実施している。講義ではグループ学習を多く取り入れ生徒面談も定期的に行っているため、教員と生徒の関係性は保たれている状況であると考えている。しかしコロナ感染症に関連した生徒特有の悩みなどがあるので、随時生徒の支援を行っていく。

・スクールカウンセラーの利用状況はどうか、また、高校時代からの要因が退学者とどのように関連しているのか、それとも他に要因があるのかわかれば教えていただきたい。

→スクールカウンセリングの利用状況は1回につき平均0.6～0.7人である。また、退学の要因であるが、高校時代からの要因が影響しているケースもある。その場合は出身高校に連絡し情報を共有させてもらっている。また、その他の要因として多いのは学業不振からの退学であり、この場合の対処は今後の課題と捉えている。

・生徒が相談するまでのプロセスはどのようになっているか、また相談用メールアドレスや意見箱の設置はあるのか。

→相談までのプロセスについては、担任から促す場合と、生徒自身から相談がある場合がある。定期的な面談のみならず、担任が気になった場合面談を行っている。相談用の専用メールアドレスはないが、生徒は個別に担任にメール等で相談できるようになっている。意見箱についても設置している。

基準6 教育環境	評価	普通
----------	----	----

【小項目】

6-21-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか：普通

6-22-1 学外実習の実施体制を整備し、関係機関との連携が図られているか：ほぼ適切

6-23-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか：普通

6-23-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか：普通

【委員の意見】

・学内・学外教育共に、コロナ禍で悩ましい状況ではあろうが、生徒に不利益とならないよう教育水準の維持を期待する。また、換気も必要ではあろうが、適切な空調管理で学生の健康管理に努めていただきたい。

→コロナ禍であるが学内教育は順調に推移した。学外教育（実習）はお断りされる実習先もあったが、生徒に不利益にならないよう学内実習を工夫し、濃い実習になった。感染対策と健康管理について、換気と空調が両立できるよう、教室は窓を少々空けつつ、空調で暑さ対策に努めている。

・Eスポーツの導入の検討はなされているのか。

→Eスポーツの導入は現在のところ考えていない。

基準7 生徒の募集と受入れ	評価	ほぼ適切
---------------	----	------

【小項目】

7-24-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか：ほぼ適切

7-24-2 生徒募集を適切、かつ、効果的に行っているか：ほぼ適切

7-25-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか：ほぼ適切

7-25-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか：ほぼ適切

7-26-1 学納金は、教育内容や生徒及び保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか：ほぼ適切

【委員の意見】

・現職のスタッフや実習生に話を聞くと、自分自身や家族が理学療法を受け、この仕事を知り、目指したという例が多くある。具体的な係りを通してこの仕事の魅力や、やりがいを理解し、志望しているようである。SNS を利用した新しい広報活動に取り組んでいるようであるが、より深い理解を得られる工夫をお願いしたい。
→本校も進路ガイダンスや高校への出張講義などにおいては職業理解に努めており、今後も継続して行っていく。

・より多くの方に学院のことを具体的に知ってもらうために、ホームページなどに短時間の講義の動画を入れPR するのはいかがでしょうか。
→授業の様子を Youtube やホームページ、Instagram などに積極的に公開し、なかなか外から見えにくい授業内容や生徒の日々の様子など、医療職を目指す専門学校の姿を伝えていく。

・4年制大学志向が増える中で、生徒の確保は難しい問題と考える。今後も多方面での活動を期待している。
→生徒確保については、少子化に伴って高校生人口が減少している。社会人入学についても今まで以上に進めていくことも必要と思われる。その為、オープンキャンパスや、個別の説明会などを今まで以上に積極的に取組んでいくことが必要と考える。

基準8 財務	評価	適切
--------	----	----

【小項目】

8-27-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか：ほぼ適切

8-27-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか：適切

8-28-1 年度予算、中期計画は学校がおかれた現状を踏まえて妥当なものを策定しているか：適切

8-28-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか：適切

8-29-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか：適切

8-30-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか：適切

【委員の意見】

・生徒数の増加を目標とする中で、社会人経験者への伝え方の工夫はどのようにしているのか。社会人経験者の入学生やオープンキャンパス参加者へのアンケートを

とって検討するのも良いかと考える。

→社会人経験者への伝え方として、これまではホームページに頼る広報であり、オープンキャンパス時のアンケートの結果についても、細かな分析に至っていない状況であった。今後は、年代や欲している情報別に的確にターゲットを絞って発信できるWEBやSNS広告の活用を計画している。

基準9 法令等の遵守	評価	ほぼ適切
------------	----	------

【小項目】

9-31-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか：ほぼ適切

9-32-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか：ほぼ適切

9-33-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行い、その結果を公表しているか：ほぼ適切

9-33-2 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行い、その結果を公表しているか
：ほぼ適切

9-34-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか：普通

【委員の意見】

特になし

基準10 社会貢献・地域貢献	評価	普通
----------------	----	----

【小項目】

10-35-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか：普通

10-36-1 生徒のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか：普通

【委員の意見】

・交通の便の良さや、設備の充実等、研修会やイベント会場としての集客機能は高いと思う。関連業界並びに広く一般への貸し出しなど検討していただけるとありがたい。

→現在は、新型コロナウイルス感染症の影響の中、学内の感染対策を最優先にしており、外部への施設の貸し出しは控えている状況である。施設の貸し出しの規定は策定されており、新型コロナウイルス感染症の収束後は随時対応する予定である。

・コロナ禍で困難な状況ではあるが、時期や方法を検討し、積極的な活動を期待する。

→屋外での清掃活動など少しずつ行っているが、新型コロナウイルス感染症の発生状況を見ながら検討していく。

・最近「プロボノ活動」が注目されているが、自らの得意分野を活かし、生産性の

高い活動ができることを学生に伝えて、将来の継続的なスキルアップへの取り組みの選択肢の一つになれば良いと考える。

→以前はウォーキングイベント等にて血圧測定のボランティアとして参加した経緯があり、新型コロナウイルス感染症の発生状況を見ながら検討したい。

・地域で催されている活動に、学校としてブースを出して参加をするのはどうだろうか。

→熊本駅前広場を使ったイベント等への参加依頼が学校に来ているが、新型コロナウイルス感染症の発生状況をみて控えるような判断をした。状況を見ながら検討したい。

6 総括

学校関係者評価を通して、本校の教育活動全般における課題が明確化したことを受け大変有意義な活動であったと考えている。

各評価基準とも、適切または概ね適切であるという評価結果となったが、評価委員からのより良い学校を作っていく為の意見や提案は、今後の課題の解決や円滑な学校運営にとって大変貴重なものであった。

今回の学校関係者評価委員会での各委員のご意見を教職員全体で情報を共有し、より良い教育機関となるよう努力していきたい。

以上